

# 千年の森便り No.217

2021.10.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 10月17日（日）雨 きのご観察会

ちば千年の森をつくる会の活動のフィールドである豊英島は野生キノコの宝庫と言われています。過去には貸し切りバスを仕立てて盛大に観察会を開いたこともありました。

しかし、2019年の台風被害に続くナラ枯れによる立ち枯れ危険木の増加、更にコロナ禍の追い打ちで、折角のきのこシーズンにも拘わらず活動に支障が出ています。

17日の定例活動では県立中央博物館から講師をお招きしてのキノコ観察がテーマでしたが多人数を集めての公開行事とはしませんでした。

当日の天気予報では活動時間帯の降水確率が高く、集合場所の農産部直売所に到着時点ですでに雨でしたので、林内でのキノコの採集は手分けして短時間で済ませ同定や解説は清和県民の森の施設をお借りすることになりました。林内活動では全員ヘルメットとマスク着用を徹底しました。

同定会場については急なお願いでしたが、清和県民の森の皆様のご理解ある柔軟な対応で無事に当日の活動を終える事が出来ました。

講師の吹春先生ご夫妻には毎年お世話になり感謝しております。最新の菌類研究成果による新発見や色々な話題を交えての解説は私の衰えた脳の刺激になります。体験参加の皆様 菌類の不思議ワールドに足を踏み入れたご感想はいかがだったでしょうか。

参加は吹春講師ご夫妻に伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、中田夫妻、福島、真鍋の会員9名、元会員ミ・ルインさんがご主人とお子さん連れて参加、自然観察ちばの浦部純子さん姉妹が参加され総勢16名でした。（坂本）



雨の豊英湖



雨の吊り橋



雨に濡れてコバノガマズミ

### 〇バカマツタケ探索記

雨のきのこ観察会。午後まで雨がやみそうにないことから、きのこ採取の時間が1時間に限定され、時間との勝負でバカマツタケの探索に向かいました。一緒に行ったのは、苅米さんと鶴沢さんです。



雨の中、バカマツタケ探索



コシダの中にバカマツタケ



ベニタケの仲間

禁断の岬までの散策路沿いには、きのこは全くなし。今年は暑かったり寒かったりできのこの時期が予想できないなどと話しながら目的地へ。

最初の1個は尾根の北側で見つけました。傘の径が10cmを超える大物！それも傘が開いたばかりのきれいなバカマツタケでした。近づいてみるとマツタケの香りが漂ってきます。慎重に収穫したあと、周囲を丹念に探すと、すでにいたんだものも含めて10本くらい見つけることができました。

今年も参加者の皆さんにバカマツタケをお見せすることができて良かったです。（福島）

## 〇雨のきのこ観察会

雨の中での君津の千年の森をつくる会のキノコ観察会。意外にも楽しかったです。森の中だと雨もさほど強くなく、レインコートを着て長靴だと気になりませんでした。



ベニタケの仲間

ホウキタケの仲間

トキイロラッパタケ

ヤマボウシの実

薄暗い森で特に目立ったのはベニタケの仲間のキノコ。鮮やかな色がとても美しかったです。実は日本の森に生えるキノコの重量の50%近くがベニタケの仲間だと言われているのだそうです。ベニタケは「外生菌根菌」が多いといえます。外生菌根菌は、菌糸（地中にあるキノコの本体）が木の根と共生して、木の栄養吸収を助けています。

こんなに綺麗でしかも日本の森で木の命を支える重要な役割をしているのに・・・名前がついているものがとても少ないのです。なので「ベニタケの仲間」というざっくりとした呼び名になってしまうのです。先生に聞いても、ほとんど名前が教えて貰えないのに慣れてしまい・・・そうすると段々関心が薄れ見向きもしなくなるというサイクル・・・。

でも、今回ベニタケの仲間のキノコの重要さを聞いて、今度会ったときは「森を支えてくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝えようと思いました。

最近気候変動のためか、キノコもいつ出てよいか分からないのでしょうか。まとめて出るのを見るのが少なくなりました。今回も以前に比べると少な目ではあったものの、沢山の種類のキノコに出会えてよかったです。この秋の良い思い出になりました。（中田真也子）



3コースに分かれ1時間のきのこ探しに出発

きのこ探して採集

きのこ探し撤収

## ○吹春講師お話の要旨

- ・毎年使用している孢子の色できのこを分類した資料に基づき説明がありました。
- ・ベニタケの仲間は、外生菌根菌として森で優先するきのこですが名前がつかないものがほとんどです。
- ・ヒラタケの仲間ではウスヒラタケが見つかりました。これは食べられるきのこです。
- ・アカヤマタケの仲間はヒダが厚く蟻細工のように見えます。
- ・キシメジの仲間は、ヒダが白くて何のパーツもない形をしています。バカマツタケは目に焼き付けて覚えておいた方がよいきのこです。千葉県にはマツタケは出ませんが、ブナ科と共生するバカマツタケと臭いが無いニセマツタケの2種類が出ます。
- ・ミネシメジは、触るとゆっくり赤変するという特徴があります。
- ・ツエタケは、柄が長く伸びるのが特徴です。もとは2種類でしたが、今では10種類以上に分けられています。
- ・モリノカレバタケは落葉を分解するきのこです。
- ・ホウライタケの仲間は、柄がしっかりしていて皮質の傘を持っています。
- ・テングタケの仲間は、つぼもつぼもあるテングタケ型と、つぼがなくてつぼがないツルタケ型に分けられます。
- ・フクロツルタケ、タマシロオニタケは猛毒です。タマシロオニタケは根元が急に膨らむのが特徴です。
- ・ウラベニホテイシメジは、傘の表面に点々が出るのが特徴です。食べられません。
- ・クサウラベニタケは、ウラベニホテイシメジによく似た毒きのこです。
- ・フウセンタケの仲間は孢子が鉄錆び色に成熟します。外生菌根菌で名前がほとんどついていません。
- ・フウセンタケの仲間の中で唯一名前が付いたのは傘にトゲトゲがあるオニフウセンタケです。このきのこはニューギニアでも見つかっていて、豊英島の森がアジアのシイカシ林と繋がっていることを示すきのこです。



・カエントケはかじってはいけない毒きのこで、昔は原生林にしか出ませんでした。

←カエントケ

などの解説がありました。吹春先生、ありがとうございました。（福島）



採集したサンプルを整理・分類して解説の準備



サンプルをじっくり観察し講師の解説に聴き入る参加者

## ○久々の千年の森

前回のキノコ観察会の参加（2017年の7月）から4年3ヶ月も経ちました、気のせいかもしれませんが、千年の森は以前よりも茂っているように感じました。キノコ採取のついでに、まだ種を飛ばしていない今年のトサノクロムヨウランを数株（ホテイ岬のマダケ林で）、クロヤツシロランを1株（コナラ林、カエントケ発見地）見かけました。ナラ枯れの件を聞いて、これら菌類従属栄養植物の近い将来がちょっと心配になりましたが、森と菌のネットワークの頑丈さを信じて、みんなの繁栄を願っております。また、会の皆さんに会えて、とても嬉しかったです。今回は本当に久々の千年の森に癒されました。また来年の観察会もお声がけ頂ければ幸いです！（柏市 み・るいんさん）（元会員）



トサノクロムヨウラン

きのこ採取中のしよ君

雨の森で楽しいきのこ観察

吹春先生先生のお話親子で聴き入る

## ○きのこかんさつかいのみんなへ

きのこをとることがたのしかったです。あと、ぼくがーばんさいしよに見つけたきのこ（ウコンハツ）が（吹春）せんせいにほめられてうれしかったです。あと（吹春）せんせいにしつもんしたら「いいしつもんだね」とほめられてうれしかったです。あといろいろなきのこのことをまなべてよかったです。いじょう、きのこ（きのこ）かんさつかいのかんそうです。（暁星国際流山小学校1年生 か・しよ君より）

## ○雨のキノコ観察会

2年前の5月自然観察ちばの研修会で豊英島を案内していただいたから、初めてのキノコ観察会でした。雨は上がる気配もなく降り続け、なんとなく歩いている私はドングリや枯れ葉に、もしやキノコ？と近づいてみてはがっかり。ふかふかの落ち葉を踏んで、雨の匂いと同時に気が付けばキノコがありそうな匂い、樹木や葉っぱや土の匂い。森の中はいい香りでいっぱいでした。

だんだん目が慣れてくると見つけられるものですね。全形を掘りだしたいと落ち葉の下深くごそごそとかき回してみました。地下はどうなっているのでしょうか。似ているようでそれぞれ別の生き物のような、植物のような動物のような、キノコは個性的でした。

1時間ほどの採集で、この小さな島のたくさんのキノコが集まりました。吹春先生の初心者特別講習では胞子の色・傘の裏・姿かたちでの分け方を教えていただきました。ふだん見るキノコは雨傘の形で、「かさ・ひだ・くき」ですが、「かさ・ひだ・くき・つば・つぼ」がありました。胞子の色やヒダが厚い・細かい、もろい・固い、分類した本物を見て触りながら匂いを確かめながらの説明は分かりやすく、違いはわかるようになりました。バカマツタケ・カノシタ・カエントケ覚えました。区別がつくのはいつになるのやわかりませんが。

中学の頃に信州土産のエノキタケを初めて見ました。その後ブナシメジ・エリンギ・マイタケなど多様なキノコがスーパーに並ぶようになりました。有機物を分解して無機物に還元する地下の菌糸の部分、昆虫その他の動物との関係、食用キノコ・毒キノコ、どうなってるのと不思議いっばいのキノコ観察会でした。

吹春先生ご夫妻はじめ皆さま、貴重な体験をありがとうございました。（千葉市 浦部純子）



熱心にきのこの学習

## ○再度カエントケ

先月の個別活動で幕張の山口さんが島内で初となるカエントケを発見しました。今回も同じ木の根元に発生していましたが、別の場所での発生は確認できませんでした。

カエントケはシーズン中に同じ木の根元に繰り返し発生するようです。原木のシイタケ栽培でも繰り返し発生しますから菌類の生態では珍しい事ではありません。

カエントケは猛毒キノコとして恐れられ、食べるのは勿論、触れても空中を漂う胞子を吸うのも危険と言う人がいます。有毒は間違いないと思いますが、話に尾ひれが付いて拡散しているように見えます。

インターネット情報にも皮膚がただれた写真や口内炎の写真がありますが、キノコと無関係で起きた症状の写真を切り貼りして記事に仕立てたようにも見えます。所謂フェイクニュースの手法が疑われます。

尚、当日の講師の先生は素手で採取し、同定会では皆が見えるように手に持って解説していました。何人かは触って固さを確かめていました。

私は先月発見したものに触れて固さを確かめましたが、コルク栓又は消しゴムの様な感触がありました。その後帰宅まで手を洗いませんでしたが、皮膚に異常はありませんでした。

以上は事実の報告で積極的に触れと言う訳ではありません。間違っても慌てず、心配なら念のため手を洗えば良いと思います。(坂本)



## お知らせ

○次回活動日は 11 月 21 日 (日)、年間計画では台風被害木等の処理とホテイ岬の整備が予定されています。

現在、島内は台風による倒木、枝折れに加えて、ナラ枯れによる枯死木が多数発生しており危険な状況となっています。

今後の活動をどのように進めていくか十分な検討が必要と思われるので、それにより活動計画に変更があるかもしれません。次回の活動については、今後の連絡をご確認ください。

なお、個別活動で活動日以外に豊英島に行かれる方は必ずヘルメットを着用し、頭上からの落枝に十分ご注意ください。